

## 基 調 講 演

テーマ：土木学会コンクリート標準示方書〔維持管理編〕の変遷

講 師：広島大学 大学院先進理工系科学研究科  
教授 河合 研至



### 略 歴

1985年 3月 東京大学工学部土木工学科卒業  
1990年 3月 東京大学大学院工学系研究科土木工学専攻博士課程修了，工学博士  
1990年 4月 広島大学助手 工学部  
1995年11月 広島大学助教授 工学部  
1997年 7月～1998年 7月 米国ノースウェスタン大学客員研究員  
2010年 4月 広島大学教授 大学院工学研究院  
2020年 4月 広島大学教授 学術院（配属 大学院先進理工系科学研究科）

### 研究活動・著書他

硬化コンクリートの配合・アルカリ量推定，炭酸化に伴うコンクリート内部の物質移動，好気性微生物によって引き起こされるコンクリートの劣化，フライアッシュ等ポゾラン材を用いたセメント硬化体の性質，都市型廃棄物を利用したセメントの性質，硫酸によるコンクリートの劣化，コンクリートからの重金属溶出，コンクリートの環境影響評価などの研究に従事。

2009年4月～ 現 在 土木学会コンクリート委員会常任委員会委員

2008年8月～ 現 在 土木学会コンクリート委員会示方書改訂小委員会委員

2010年8月～2012年5月 土木学会コンクリート委員会示方書改訂小委員会維持管理編部会副主査

2015年4月～2018年3月 土木学会コンクリート委員会示方書改訂小委員会維持管理編部会主査

エース コンクリート工学・朝倉書店・2002年4月（共著），コンクリートの環境負荷評価・土木学会・2002年5月（編著），コンクリートの環境負荷評価（その2）・土木学会・2004年9月（編著），Recommendation of Environmental Performance Verification for Concrete Structure (Draft)・Japan Society of Civil Engineers・2006年6月（共編），コンクリート構造物の補修・解体・再利用における CO<sub>2</sub> 削減を目指して―補修における環境配慮および解体コンクリートの CO<sub>2</sub> 固定化―・土木学会・2012年5月（編著）

### 講演概要等

高度経済成長期に大量に建造された社会基盤構造物が老朽化を迎え，トンネルや高架橋などで発生したコンクリート片の剥落事故などが社会問題として大きく取り上げられるようになってきた。さらに，21世紀は維持管理の時代とまで言われている。コンクリート構造物における維持管理の重要性が増すなか，2001年1月には土木学会コンクリート標準示方書の新たな編として維持管理編が制定された。以降，およそ5年おきに3回の改訂が行われ，2023年3月には新たな維持管理編が発刊される予定である。技術の進歩や研究の進展に即して改訂が行われてきた土木学会コンクリート標準示方書〔維持管理編〕の変遷について概説する。